

所属	商学部	身分	准教授
氏名	福西由実子		
NAME	Yumiko Fukunishi		

1. 研究課題

(和文) イギリスにおけるフォトジャーナリズム——1930-40年代を中心に

(英文) British Photojournalism in 1930-40s

2. 研究期間

1年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

両大戦間期は、当時深刻であった不況を背景に、イギリス国内の労働者や下層民の実態を「現実のままに」描き出すドキュメンタリーが様々な領域において盛んになった。本研究は、中でもハンガリー系ユダヤ人ジャーナリストらによって持ち込まれ、活性化した英国フォトジャーナリズムに注目した。英国フォトジャーナリズムについては、これまで写真史の概説においてしばしば言及されてきたが、専門的な研究はなおのこと、ドキュメンタリー運動に参加した諸個人に焦点を当て、具体的にどのように協働関係を築いていたかについての研究はほとんどなされていない。そこで、本研究では多くの重要なドキュメンタリストたちが執筆し、視覚的な関係性を自己の活動に取り込んだフォト雑誌、『ピクチャー・ポスト』と、その編集長であるハンガリー系ユダヤ人、シュテファン・ローラントの考察を中心に行うこととした。

研究の流れとしては、まずハンガリーで誕生したフォトジャーナリズムがワイマールドイツで「黄金期」を迎え、ヒトラー政権樹立の時期に亡命ユダヤ人ジャーナリストたちがイギリスに導入した過程を整理するため、ハンガリー国立写真博物館において史料収集をおこない、ローラントやロバート・キャバラが、亡命後母国に寄贈した様々な文書や写真資料の数々にアクセスし、あわせてイギリス、ハンガリーの写真史研究者達と、意見交換を行った。さらに、『ピクチャー・ポスト』の重要性・独自性を確認する作業の一環として、この雑誌を、他のドキュメンタリー運動との関係の中で考え、運動に関わった人類学者、社会学者、作家ら知識人の、同じ対象（労働者、北部、貧困問題等）を表象する際の共通点・相違点の分析を行った。とりわけ第二次大戦開戦を目前に、外国人であるローラントが構築しようとした「共同体としての英国」像については詳細に検討した。

本研究の成果としては、2013年6月に日本ロレンス協会大会シンポジウムの場で口頭発表を行うほか、2013年9月に人文研紀要に論文としてまとめ、発表する予定である。

(英文)

As a part of my larger research project on British photojournalism, I focused my studies on two aspects of it: Stefan Lorant and *Picture Post*. Firstly, I examined how modern photojournalism was born in Hungary and refugee Jewish photojournalists like Lorant imported it into Britain. Secondly, I discussed British photo-magazines such as *Picture Post* would offered a new perspective on the representation of working class and visually developed a rhetoric of the 'ordinary', which was part of the documentary mode as a whole in 1930s Britain.

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

【学術論文】 (著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)
Yumiko Fukunishi, "The Eyes of Democracy: Stefan Lorant and <i>Picture Post</i> " (『人文研紀要』、中央大学人文科学研究所、2013年9月発行予定、査読無)
【学会発表】 (発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)
福西由実子、「理想の共同体か、悲惨の象徴か——1930年代メディアにおける炭鉱表象」(岩井岳、浅井雅志、杉山泰との合同シンポジウム「炭鉱と文学——ロレンスからオーウェルへ」における発表の予定)、日本ロレンス協会第44回大会、北九州市立大学、2013年6月23日
【図 書】 (著者名、出版社名、書名、刊行年)
【その他】 (知的財産権、ニュースリリース等)